

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202171		
法人名	社会福祉法人 三省会		
事業所名	グループホームやまずみ荘		
所在地	長崎県佐世保市山祇町 383番地1		
自己評価作成日	令和 2年 11月 30日	評価結果市町村受理日	令和 3年 3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的な雰囲気の中で自立し、やすらぎのある生活を送って頂けるよう努める」という理念のもとに、入居者中心の生活を考え、出来る事、出来ない事をしっかり把握し、入居者の方が楽しく生き甲斐をもって生活できるように毎日の支援を行っている。
 毎日の日課として、午前中は脳トレーニング、午後は歩行訓練を取り入れ、心身の活性を図る事で認知症の進行や身体機能の低下が緩やかになるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは社会福祉法人が母体となり、同法人が運営するデイサービスや小規模多機能ホーム、特別養護老人ホーム等が隣接している。建物の3階にあるホームは窓からの景色が良く、コロナ禍で外出を自粛する中でも入居者は外を見渡して気分転換を図ることができ、季節を感じることもできる。浴室には座った状態で入浴できるリフト浴を設置し、重度化した方でも安全に気持ち良く入浴できるよう支援するとともに、職員の身体的負担軽減にも努めている。コロナ禍により入居者との面会制限を行っているが、家族からの要望を受けリモートで面会できるよう整備している。「家庭的な雰囲気の中で自立し、やすらぎのある生活を送って頂けるよう努める」という理念のもと、職員はゆとりを持って入居者と関わり、入居者が穏やかに生き甲斐を持った生活を継続できるよう支援に努めている。また、職員同士のチームワークも良く、働きやすい職場と言える。地域や同法人の関連事業所との連携も図っており、今後もますます期待の持てるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームやまづみ荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に『法人の理念』と『グループホーム理念』を掲示している。 年度初めに、理念に沿った年間目標を定め、全職員で共有し、実践に努めている。	職員はホーム理念をもとに年度初めに年間目標を設定し、目標に沿った行動計画を立案し実践に取り組んでいる。ホーム内で行うセクション会議では職員が目標・行動計画に沿って入居者に寄り添ったケアが実践できているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染症の影響前は、近隣ストアへ買い物や外食、地域イベントへの参加など、外出して地域参加していたが、現在は感染予防対策として外出自粛して外部との接触を最小限にしている。 たまの日曜日に市内ドライブ(車中のみ)にお連れして馴染みの場所巡りをしている。	ホームは近隣の小学校からイベントへの参加の招待を受けるほか、母体法人で行う夏祭りへ地域住民に参加してもらうなど様々な交流を通じて地域との繋がりを深めている。コロナ禍にある現在はこれらの交流を自粛しているが、以前は地域のボランティアやホーム見学の受け入れも行っていった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体の活動の中で、地域交流委員会による介護教室で『認知症ケアについて』等のテーマで勉強会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナ感染症対策のため、地域運営推進会議の開催を自粛している。 『運営方針や年間目標と達成状況、行事やサービス提供状況、職員配置や研修参加状況、加算算定状況』を、4月～9月迄の報告を10月に、11月迄の報告を12月に、書面で関係者へ配布して意見を頂いている。	運営推進会議には通常、市職員や地域住民、家族、他施設職員等の参加があり、今年度は新型コロナウイルス感染症対策として書面での報告を行った。会議録はホームの玄関に掲示し、職員は閲覧することで会議内容を把握するよう努めている。	運営推進会議の議事録はホーム玄関に設置することでいつでも閲覧できる環境にあるが、新型コロナウイルス感染症の影響により家族等の面会が少ない状況にある。このことを踏まえ、今後は会議の内容を家族にも周知できる方法を検討し取り組むことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政からの意見や指導、情報を頂いている。 市・県長寿社会課や、佐世保医師会、佐世保警察署等から発信される情報や、ホームページ、動画配信等を取り入れ、全職員で情報共有している。	市担当者とは日頃から情報交換を行っており、母体法人で行う行事の名称が事業所毎で異なっていると指導を受け改善した。市への要望等はグループホーム連絡協議会を通じて行っており、市から外部研修の案内が届くこともあり、研修に参加した職員は研修に参加していない職員へ伝達することでホーム全体のスキルアップに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で『身体拘束の適正化のための方針書』を整備し、2ヶ月毎に身体拘束0推進委員会の中で、話し合った内容を事業所で報告、議事録回覧し周知している。 身体拘束廃止に関する知識や情報を全職員が把握し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	ホームでは身体拘束に関する指針を作成し、職員がいつでも閲覧できるようにしている。また、2か月毎に法人全体で身体拘束0（ゼロ）推進委員会を開催するとともに、ホーム内での研修を年2回実施している。身体拘束廃止に向けて全職員の意識を高め、業務中でも気になった時には互いに注意し合いながら実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の内部研修へ参加し、虐待や不適切ケアが無いケアを実践している。 事業所に『虐待の芽チェックリスト』を掲示し、言葉遣いや態度、表情などに配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度が必要な入居者はいないが、制度について職員が必要に応じて相談助言できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、契約書・重要事項説明書・各同意書等をもちいて契約に関する説明を丁寧に行い、理解・納得いただくよう努めている。 介護報酬改定時は文書で家族へお知らせし、重要事項説明書を作成し、同意いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族への電話連絡時やケアプラン説明時に意見や要望を伺い、職員間で検討し運営に反映させている。 聞き取った情報はケース記録や申し送りノート等を活用し、職員間で情報共有している。	コロナ禍により入居者との面会制限を行っているが、家族からの要望を受けてリモートで面会できるよう整備している。日頃の会話や電話などで聞き取った入居者・家族の要望は申し送りノート等を活用して職員間で情報を共有し、対応の検討・実施に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎朝の申し送り、セクション会議・ケース会議等へ参加して、職員の意見や提案を聴取し、助言や運営に反映している。 管理者と主任は、法人の運営会議に参加して各事業所との情報共有、意見交換を行っている。	毎年、年度初めに活動計画に基づいた必要物品などを管理者・職員とで話し合い購入している。職員との定期的な個別面談は行っていないが、管理者は職員と1対1になった時に相談を受けるよう心掛けている。希望休や資格取得への協力も行っており、資格取得後には給与に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は『就業規則』及び『給与規程』を定め、保有資格や業務内容、勤続年数に応じた手当を支給し、資格取得やスキルアップを後押ししている。 平成30年度より『人事考課規程』を制定し、職員一人一人の能力と実績に応じて、賞与等へ反映する体制を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が年度毎の研修・資格取得の計画目標をたて、資格取得やスキルアップに取り組んでいる。 外部研修は感染症予防対策のため自粛しているが、法人内の各委員会主催の内部研修や勉強会、新人研修に参加して知識習得やスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会主催の定例会・研修会は感染症予防対策のため自粛しているが、電話連絡や書面等を通して情報交換を行い、事業所の発展やサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、本人の意向や要望、不安等を聞き取り、当事業所で出来る事と照らし合わせながら、安心して暮らせる施設作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの段階から、家族の意向や不安な点、疑問点を聞き取り事業所で、できる事や取り組んでいること等を説明し、協力を頂きながら安心して預けていただけるように事業所内でも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に利用者、家族、ケアマネ、医療機関、事業所などの利用者を取り巻く環境から、生活歴、既往歴、性格など心身の状態などの情報を把握分析し、初期対応を見極め支援につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で、一人一人の能力や性格に応じたお手伝い(洗濯物たたみ等)や軽作業をお願いする事で、役割や生き甲斐、楽しみ作りが出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナ感染症対策のため、面会の機会が無い分、家族へ電話連絡して状態を細やかに報告している。 プラン目標や意向、問題解決に向けての支援について一緒に考えて頂いている。 市内在住の家族様には病院受診の付き添いのご協力をお願いする等声かけしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症発生状況を見極めながら、家族と面会の機会が持てるよう、法人で面会室を設けている。 必要に応じてネット回線の面会が出来るようにしている。	ホームではコロナ禍においても入居者と安全に面会ができるよう、感染症への対策を十分に講じた上で面会を実施しており、遠方の家族にはリモートで面会ができるよう環境を整備した。コロナ禍以前はホーム行事への家族の参加を促したり、入居者が家族と一緒に外出できるよう支援していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	事業所内の複数個所にソファを設置し、入居者同士がどこでもくつろげる空間作りを行っている。 入居者同士の相性に配慮しながら食堂ホールの席配置を行い、職員が間に入り声かけながら関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は家族や病院へ連絡を取り、入院中の状態把握に努め、退院時にスムーズに受け入れが出来るようにしている。 死亡退所の際は、葬儀参列や、初盆参り等、契約終了後も家族との関係を断ち切らないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を通して入居者の思いや希望を把握するよう努めている。 知り得た事柄は、申し送りや伝達ノート、ケース会議等で情報を共有して、入居者の思いに沿えるようにしている。	ホームでは入居時に入居者の職歴や生活習慣などを聞き取り、職員は聞き取った情報をもとに普段の会話の中から意向や思いを把握するよう努めている。把握した本人の情報は全職員で共有し、介護計画に具体的に反映することでその方が入居前からできていたことや思いが継続できるよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族、担当ケアマネ等から生活歴や馴染みの暮らし、性格や嗜好等の情報を収集し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間の生活状況を細やかに申し送り、記録して、一人一人の特性や趣味嗜好、心身の状態や出来る事等の情報を共有し、職員全員で周知把握して毎日のケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を確認し、職員と意見交換をしながら、計画作成担当者が施設サービス計画書を作成している。 施設サービス計画書は約3ヶ月毎に見直し、現状に即した介護計画を立てている。	入居者毎に担当職員を設けているが、職員は全ての入居者が自分の担当であるとの意識を持ってケアの実践に努めている。計画作成担当者はケース会議等を通じて職員に聞き取りを行った上でサービス実践状況を評価し、介護計画を作成している。職員は入居者の目標を把握し、適切なケアの実践に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況や支援の中で知り得た情報や気づき等を送りノートやケース記録などに記録して情報を共有している。 今後必要な支援、対策を検討し、実践や施設サービス計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域密着型サービス事業所(小規模特養、認知デイ、小規模多機能等)と連携して合同の行事を開催してサービスにつなげているが、今年度は合同開催が出来ず、事業所内で行事計画を提供し、柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出支援が出来ず、ホーム内で体力や能力が落ちないように、その方にあった生活機能向上に沿ったリハビリなどを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診や週1回の訪問看護、希望者の歯科往診にて健康管理を行っている。 協力医療機関以外にも、家族の協力を得ながら共済病院、中央病院、総合病院などへ受診されている。 年2回のレントゲンなどで定期健診受診をしている。	入居時、入居者本人及び家族に対してこれまでのかかりつけ医からホーム協力医へ変更することを依頼している。ホームには月2回協力医より訪問診療があるほか、訪問看護、歯科往診等により入居者の健康管理に努めている。他科や専門医への受診については家族へ同行を依頼しているが、困難である場合は職員が対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介護の中での状態変化や気づきを、訪問看護(毎週火曜日)や法人内の看護職へ伝え、体調管理を行っている。小さなことも見落とさずに異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、心身状況や生活状況等の情報を病院へ報告している。入院期間中も、病院と連絡をとり状態把握に努め、退院後はスムーズに受け入れが出来る体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	『重度化した場合における対応に係る指針』や『看取り介護マニュアル』を整備し、入所時に事業所でする事を説明している。終末期を迎える事になった場合に看護職などに指導をもらい、職員全員で支援に取り組んでいる。	入居者・家族の希望に沿えるよう、ホームでは看取りに関する指針の整備や講習会を実施し看取りに取り組んでいる。直近では前年度にホームでの看取りを行った。職員の精神的な負担を軽減するため、夜勤前に緊急時の対応などを確認し業務に従事している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	『容態急変時緊急時の連絡・対応マニュアル』を整備し、職員に周知している。また法人内で勉強会が開催され参加している。夜間は24時間オンコール対制で待機している。事故発生時も手順等報告が出来るように実践力を付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	『消防・防災マニュアル』や『非常災害時対策マニュアル』を整備している。法人全体で年2回、事業所でも年4回の火災訓練を行い、備蓄品も整備している。事業所内でも火災を防ぐために点検を行っている。施設全体で地域と防災協定を結び対策に努めている。	法人全体での訓練を年2回、ホームでの訓練を年4回実施している。避難訓練には職員が交代で参加し火災や災害に備えており、地域との協力体制についても運営推進会議等を通じて確立している。備蓄品は法人本部で管理しており、全職員及び入居者の7日分の食料を保管している。	災害時の一時避難場所及び災害後の受け入れ先について、職員だけでなく家族にも分かりやすいよう周知することが望ましい。また、ホームが3階であることを考慮し、重度の方の移送方法についても検討することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の自尊心に配慮し、言葉使いや態度に気を付け、居室へ入るときもノックをしてから入室している。 トイレ誘導も安全確認して少し離れ見守る。入浴は個浴で行いプライバシーに努めている。	職員は入居者の尊厳を尊重するとともにプライバシーを守るよう配慮し、定期接遇研修にて理解を深めている。排泄や入浴の支援時にも入居者の安全を確保した上で、その方の羞恥心に配慮しながら支援に取り組んでおり、特に入居者に対する言葉遣いに留意し、職員同士が互いに注意しながら実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で気分が乗らない時など思いや希望を言われるとその方の思いに付き添いをしている。 自己決定が出来るような雰囲気作りに努め無理強いをしない。 思いを言葉で言えない方は表情などで読み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の性格などできる事出来ないことを把握して、その日の体調や気分、本人に合った生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	夜はパジャマで寝て、朝は洋服に着替える時に自分で選んだものを羽織ってもらい、介助が必要な方は更衣を支援している。 髪の毛も定期的に美容師に整えてもらいおしゃれが楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の献立でバランスの取れた食事、嚥下状態に合わせた食事を相談しながら提供している。 一人一人の嗜好などの聞き取りを行い献立に活かされている。テーブル拭きなどして頂き食事の楽しさを感じてもらっている。	法人所属の管理栄養士が作成した献立に沿って、併設の特別養護老人ホームで調理した食事を提供している。おやつに関しては職員が手づくりしており、入居者の好みなどを聞いて好みのおやつを提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立や、バランスの良い食事を提供している。 嚥下状態に合わせた食事形態で出している。 水分が少ない方にはその都度、水分量を計るなどして支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛けを行い誘導して行ってもらっている。介助が必要な方には支援をしている。 義歯の方は夜に外してもらいポリドントにつけてもらうようにしている。 歯科往診の時に指導を頂いたりして支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの訴えが無い方も定期的に誘導を行い、便器に排泄が出来、パットの使用量が少なくなるような支援をしている。	職員は排泄チェック表に入居者毎の排泄状況を記載し、排泄パターンを把握して適宜声掛け・誘導を行っている。ポータブルトイレは夜間のみ使用し、日中はトイレで排泄できるよう促し、排泄の自立に向け取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を記録・把握するなどして水分量や運動を取り入れ自然に排泄できるように支援している。 排便がないときは看護師に相談して排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の前にバイタル測定を確認して声掛けを行っている。拒否があった場合は時間をずらし、再度声掛けを行うようにしている。 1対1での入浴時間で職員との会話を楽しくしてもらい、個々に合った入浴時間で支援しておく。	ホームでは週2回の入浴を基本として支援しており、菖蒲湯やゆず湯など入浴で季節を感じられるよう工夫している。また、重度化にも対応できるよう座った状態で入浴できるリフト浴を設置している。皮膚疾患がある方については皮膚科を受診し、医師の指示に従って入浴の順番を検討したり、入浴後の軟膏塗布を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人夜の行動が決まっており、ベッドに入る時間、テレビを見る時間など生活時間を崩さないように声掛けしている。 昼食後にお部屋へ行かれ休息をとられたり、午後に運動をして夜眠られるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は手帳に貼り付け、いつでも見られるようにしている。 職員が一人一人の病状を把握しどんなお薬を飲んでいるか把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中を脳トレの時間にあて頭の体操などを行い、午後からは全員でレクリエーションの時間とし風船バレー、カラオケなどを楽しんでもらっている。 趣味、生活歴などから予想し日ごとに変えて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本館(隣棟)の玄関に喫茶コーナーがあり荘内散歩を兼ねて飲みに行かれたりとしている。 天候が良いときは外に散歩へ出かけている。 日曜日は基本、ドライブの日で街へ行っている。 現在はコロナ禍で建物、屋上、ベランダでの外の空気に触れてもらっている。	新型コロナウイルス感染症の影響で現在は外出を中止しているが、当ホームは建物の3階にあり、4階は屋上になっているため、屋上でお茶会を開催するなど工夫している。コロナ禍以前は日曜日にドライブに出掛けており、入居者の気分転換と楽しみにもなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持していないが、買い物をしたときは家族の了解を頂き、預り金で買い物をして貰っている。 買い物へ出かけたときは自分でお金を支払うなど楽しんでいる。 今年はコロナ禍で買い物へは行けてない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者へお手紙が来たら本人へ渡し、読めない方には読んであげている。 脳トレの時間などに家族へはがきなどを書いてもらい郵送している。 家族より電話が来た時は話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内や廊下にいつでもくつろげるようにソファをおいて、仲間とおしゃべりが出来るようにしている。 壁に脳トレの時間に作った掲示物があり季節感を出して、誰もが集まり心地よい場所づくりに努めている	ホーム共有空間は職員が毎日モップ掛けを行い、清潔保持に努めている。新型コロナウイルス感染症対策として、入居者のテーブルにアクリル版の設置と定期的な換気を実施している。職員は1日に2回検温を行うほか、個人用に手指消毒液を購入し使用することで感染症対策に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置で仲の良い方、気の合う方と工夫して楽しく過ごせるようにしている。 一人になりたい時間には廊下の椅子に座わり、くつろいでもらったり、居室で自由な時間を過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、家で使っていたものを持ち込んで、使い易いようにしている。 家族の写真などを飾り忘れないようにされ、持ち物で自分のお部屋と安心できるように工夫している。	居室の掃除は共有空間と同様に職員が毎日モップ掛けを行っている。入居者には使い慣れた馴染みの物の持ち込みを促し家族の写真を飾るなど、居心地の良い空間づくりに努めている。入居者の衣類等の整理は職員が行っており、清潔な環境保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体状況に合わせてベット、床頭台の配置に配慮している。 居室内で安全な行動が出来、自立した生活が送れるように、支援している。 居室を間違われる方のトラブルをなくすため、ドアに名前を貼り付けいつでも入れるように工夫している。		